

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 千葉ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 中山 雅美

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 油井 裕子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、美容・ブライダル分野の学校として「お客様を美しくすることで感謝される人材、サロン・組織を活性化させる人材」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、美容・ブライダル分野として「お客様を美しくすることで感謝される人材、サロン・組織を活性化させる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

人間性を高める教育の実践

「お客様を美しくすることで感謝される人材、サロン・組織を活性化させる人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考えている。

高い現場力の醸成

現場で活躍するための基礎力を資格・検定取得をベースに各学科で重点項目として掲げ、指導内容の統一を行うほか、学科会・教科会を実施することにより、進捗状況の確認と教育の質の向上を実現できるよう計画している。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・企業目線で見たと卒業生について、「チームでやる」という意識が高い。学校教育の在り方が反映されている。時間を守る、決められたことをきちんとやることは根底にある。目標設定に対して向かっていくというベースは出来ている。
- ・卒業生の学生時代の経験として自身本物の結婚式を作り上げるという行事において、プロデューサーとしての経験が活かしている。 礼儀、マナーが身につけていけば社会に出てからも活躍につながるのではないか。
- ・専門学校教育として、業界論、技術、知識は教えているだろうが、将来的にも美容・ブライダル業界でうまくやっていける生き方を伝えて行ければ未来の離職率低減につながるのではないか。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・保護者、生徒への学校の理念・目的・育成人材像・将来構想の浸透
- ・教職員の更なる教育理念の理解と実践を図り、指導方法の統一・レベルアップを推進

② 今後の改善方策

- ・ミッション&ビジョンポスターを校内掲示し、HR活動等を通じて理解と浸透を図る
- ・学内研修、授業見学等を通じ、教職員が相互の状況を確認できる体制を強化する

③ 特記事項

- ・教育理念、目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図っている
- ・年に一度保護者アンケートを実施し、学校教育の理解・浸透状況について客観視している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・教育理念・目標が明確になっていてわかりやすい
- ・生徒に対して校内ポスターなど理念・目的などの浸透のための施策を行っているのは評価できる
- ・理念、目標、育成人材像を全教職員に浸透させる取り組みを今後も続けてほしい
- ・業界ニーズを常に把握するためにも業界との連携を密にする必要がある
- ・業界目線で教育理念や、目標を見たときに、業界が求めているものと差はないので、設定している、理念、目標のもと、教育をしてほしい。

(2) 学校運営

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・リーダー会、教科会、クラス会議、広報会議など各会議を活性化させ且つ効率化を図る
- ・情報システム化により業務の効率化をさらに推し進める

② 今後の改善方策

- ・人材育成方針に沿った学科・コースの目標・計画・進捗を監視・修正できる各会議の実施
- ・グループウェアの効果的な活用方法の理解・促進

③ 特記事項

- ・年6回、定期的に全教職員・講師に向けて会議を実施し運営方針の浸透と情報共有を積極的に行う
- ・2015年4月三幸学園システム推進室設置により、グループウェアの活用がより効果的に遂行できるようになり業務の効率化と情報共有が期待できる

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・問題なく学校運営がなされていると感じる
- ・業務の効率化で確保できる時間を先生方にはぜひ学生指導にあてていただきたい
- ・運営方針の浸透、情報共有を定期的に行っている点は評価できる
- ・引き続き適正な学校運営を行ってほしい
- ・美容・ブライダルでもライフワークバランスの推進活動が広まっており、お客様のニーズに応えながら、残業時間の軽減の取り組みを両方行うことは非常に難しい問題である

(3) 教育活動

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・キャリア教育を推し進めるために社会ニーズに沿ったカリキュラム・教育方法を開発する
- ・授業評価、実習先評価の精度向上と教育への反映

② 今後の改善方策

- ・提携企業との連携を強化し授業科目の開設と授業方法の改善・工夫を行う
- ・授業評価における評価項目の見直しを実施し教員の質を向上させる

③ 特記事項

平成 26 年度より学生による授業評価の見直しが完了。また、実習先（企業）と実習生（学生）による相互評価を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 卒業生目線としては、学生時代にブライダルについてはロールプレイングが強化できると良い。
- ・ 現場でもロールプレイングの研修を3カ月受ける。ブライダルの知識というよりは、人と人との関わりを学ぶことが必要。学生同士で繰り返し学ばせることが大切。
- ・ 現場としては売上を意識していかなければいけない。
- ・ 最近の新卒や、新入社員の傾向として話すことは出来るが、スマートフォンの普及により、パソコンでの文章が作れない、文書を整理する、実際に文字を書くことなどが苦手意識のある人が多い。社会人として、パソコンは避けられないものではあるし、お客様の前で契約や、お手紙を記入する際に手書きで書くことも多いので、そういった細かい点まで教育できると、なお良い。

(4) 学修成果

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・進路決定率・資格取得率の更なる向上
- ・退学者の低減
- ・卒業生の社会的活躍の情報収集と教育活動への反映

② 今後の改善方策

- ・資格取得への動機づけの強化及び就職サポート、HRなど環境面への整備
- ・退学者プロジェクトに基づき、クラス報告会の実施と退学防止事例の共有を実施
- ・卒業生によるキャリアガイダンスなど講演や特別授業などを実施

③ 特記事項

- ・平成28年度退学率 18% (平成27年度 7.1%)
- ・平成28年度進路決定率：98% (平成29年3月31日現在)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生としての友人の中では専門学校を卒業して良かったという人が多い。
- ・昨年度の退学率が高いが理由は何か。→進路変更が多い。
- ・卒業生島田さんより、自身のブライダルプロジェクトという本物の結婚式を作り上げる行事にてブライダル業界に進みたい気持ちを改めて強めたので、その前にブライダルの世界に進む意識を強化した取り組みがあると良いのではないかと。
- ・高校目線として、退学しない学校の特徴→良い意味で放任。自分のペースでさせている。また入学の段階で目標を明確にしている。
- ・生徒によって入学時点でのその職業に就きたいという覚悟の度合いは違う。その度合いに合わせて一人一人のモチベーションを上げていけると良いのではないかと。

(5) 学生支援

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・保護者との連携は問題行動のある生徒に偏る傾向がある
- ・卒業生への支援体制を構築する

② 今後の改善方策

- ・定期的な保護者との連携を強化（学校行事見学、保護者通信の送付）
- ・更なる卒業生との連携強化を図るため同窓会サイトSANKO LINK を活用する
- ・業界内の就職を増やすためにエリア毎に担当をわけ、企業とのつながりを今後強化していく

③ 特記事項

- ・カウンセリングルームを設置し整備はできているがまだまだ活用ができていないためカウンセリングルームを周知させる
- ・飛鳥未来高校にて「職業理解のためのガイダンス」を実施している
- ・学生に通知が届く情報発信ツール『スタディサプリア連絡帳』の運用を開始
- ・平成28年度よりUターンを支援する『ふるさとサポート』制度を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高等学校とのキャリア教育への取り組みは評価できる
- ・就職や学校生活の支援体制を十分に整えられていると思われる
- ・保護者との連携については、行事見学などを活性化させてはどうか
- ・三幸学園の卒業生は忍耐強い子が多く、検定WEEKなどで追い立てて勉強をするような経験が響いているのかもしれない
- ・卒業生目線として、もっと学校の求人としてどういったものがあるのかを迅速に知りたかった記憶がある。しかしながら、現状は常に更新した求人ファイルを教室に置いたり、スタディサプリア連絡帳を使い、迅速な情報共有をしている点は非常に評価すべきポイントだと思う。

(6) 教育環境

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備する
- ・防災、災害への更なる高い意識

② 今後の改善方策

- ・関連企業との連携を強化し、学外実習を更に充実した内容にする
- ・生徒への防災への啓蒙と緊急時対応の危機管理を全教職員に周知徹底する

③ 特記事項

- ・避難訓練の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ドレスルーム、チャペル、バンケットなど十分な施設設備が備えられている
- ・実習先については在校生全員が実施できるように開拓している点が評価できる
- ・防災に対する備えもできているように見受けられる
- ・実習において必要な力は積極性や、物事をしっかりと聞いて、それを正確に相手に伝えられ、また何かあった際、相談をすることが実習の醍醐味ではないか

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・学生募集活動は適正に行っているが、入学後の学生状況や進路状況が適切に伝えられていない

② 今後の改善方策

- ・教育成果を高校の先生へ伝える
- ・広報担当部署との連携を強化していく

③ 特記事項

- ・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている
- ・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・募集活動は適切に行われているように感じる
- ・定期的に高校等を訪問し在校生、卒業生の状況を報告している点は評価できる
- ・就職先の決定だけでなく、在校生の変化なども伝えることが必要ではないか
- ・学納金は妥当な設定だと思われる
- ・美容・ブライダル業界は華やかで女性にとっては、興味を持ちやすく、憧れを抱きやすい業界である反面、結果や、業務内容に関しても厳しい部分もあるので、そこを伝えた上で、それ以上のやりがいや素晴らしさがあることを伝えていくのが良いのではないか

(8) 財務

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度到新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9) 法令等の遵守

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

②今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令順守に対する啓蒙を積極的に実施していく

③記事項

- ・2015年度自己評価結果より公開を開始

④学校関係者評価委員会コメント

- ・事項評価の公開を開始した点は評価できる
- ・今後も個人情報を適切に保護していきたい
- ・問題意識が高く、更なる向上が期待できる
- ・病院でも個人情報保護法の改定により、より一層の管理が必要となってきたため、学生にも個人情報に対する問題意識を高めてもらいたい

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・ ボランティア活動をさらに活性化させる
- ・ 地域に対する公開講座が少ない

② 今後の改善方策

- ・ ボランティア活動を積極的に進めていく
- ・ 提携企業との連携を強化する

③ 特記事項

- ・ 千葉ロッテマリーンズ主催試合でのビューティーブース設置
- ・ そごう千葉店でドレスショーと制作体験ブース設置
- ・ 千葉パルコで無料ヘアアレンジ・メイク施術の提供
- ・ スチューデントサロンを毎週開催し、地域の方に施術提供
- ・ 夏休みこどもキャリア体験にて小学生にエステ・メイク・ネイル・ブライダルの職業体験メニューを生徒がサポート

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 今後地域のフリースペースを持っている商業施設と提携して産学連携を強化していく。
- ・ 目標が明確にある人は就職してからも軸がぶれない。小さいころの経験でブライダルに興味を持った人は意志が強い。
- ・ ブライダルで産学連携をするのであれば、小さいころから潜在的にブライダル業界に興味を持ってもらうために、お子様を対象にブライダルに興味を持ってもらうことも良いのではないかと。
- ・ 保育分野の姉妹校と連携を図っても良い行事が行えそうである

(11) 国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

①課題

- ・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない現状がある

②今後の改善方策

- ・留学生向けのホームページ上コンテンツの強化
- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施回数を増加
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する

③特記事項

- ・2014年度から「留学生学費減免入学」制度を実施している
- ・日本語学校の開設
- ・台湾から3名の留学希望学生の学校見学実施
- ・H29年度、1名韓国からの留学生を受け入れ

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・留学生募集を効果的に行える広報活動を考える必要がある
- ・現状の留学生の学習意欲を見ていても、他の学生に対して、良い影響を与えているので、学校全体として教育レベルを上げていく為にも留学生を多く取り入れる対策を考えていった方が良いのでは

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・「お客様を美しくすることで感謝される人材、サロン・組織を活性化させる人材」を育成することを旨とする人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するだけではなく人間性を高める教育を併せて展開することを教育目標としている。現場で活躍するための基礎力を資格・検定取得をベースに各学科で重点項目として掲げ、ほぼ目標通りの取得率を残した。最終的な就職決定率については、98%と1名のみ進路を決定することができなかつたので、就職決定するまで今後もサポートをしていきたい。学園としても今後も就職支援・就職指導にも力を入れていきたい。

・心豊かな人間性を育むために学校生活において挨拶・マナー指導、行事、ボランティア活動を通して自主性や主体性を引き出し高める機会を取り入れているが、生徒自身の具体的な目標として目指す将来像を早い時期に合致させて、高いモチベーションを維持し続ける仕組みや体制を更に整備したい。

・担任力の強化や学校全体として教務力の向上を図るとともに、退学率の低減を確実に進めていき、そのためにも教員自身が「〇〇だろう」という推測での行動をなくし、一人ひとりが責任感を持って行動することが求められる。また学校の取り込みや体制を全教職員に理解・浸透させていき、自己評価の結果を踏まえ、業界や地域からも信頼され必要とされる学校になれるように、課題解決に取り組みながら学校運営をしていく必要がある。